

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 9 月 8 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり（1階）		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地の1 (電話) 0829306071		
自己評価作成日	平成26年7月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700103-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年9月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

小規模多機能ホームとの複合施設の為、行事、ドライブ、外食など合同で行い、利用者様同志の交流を図りながら、認知症の進行を防ぐよう努力をしています。また、デイケアやサービス付き高齢者専用住宅ヴィラひまわりから催し物の誘いがあるときは、出来るだけ参加して頂き外出の機会を設けています。職員同士も、当事業所の理念である「笑顔と思いやりのある心を大切にします」を毎朝の朝礼時に唱和し色々な場面で助け合うよう心掛けています。そして、お風呂は温泉の成分が含まれているので、心身ともにリラックスして入って頂いています。また、利用者様と一緒にテラスで季節ごとの花を植えたり、畑で野菜の収穫を楽しみに待っておられ、収穫した野菜は日々の食事などで美味しくいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小規模多機能ホームとの複合施設（定員18名）の建物である。季節ごとの行事およびイベントを合同で行っている。敷地内には、他の事業所（サービス付き高齢者向け住宅、デイサービスなど）あり、地域ニーズに即したサービスを提供している。病院が併設されており、病状変化にも即対応できることは、利用者および家族にとっては安心に繋がっている。住環境は清潔に保ち、体調管理（湿度・温度・衣類調整）にも気を配っている。地下水には温泉成分が含まれており、入浴することにより、血行を促進し、リラックス効果がある。テラスを活用し、利用者と一緒に季節の花を植えたり、畑で野菜づくりを行い、収穫した食材を食事で美味しく頂いている。管理者は、「職員の笑顔やチームワーク」が第一と考え、日々の業務で疑問などあれば速やかに話し合いを行い、常に介護方法について話し合いを行っている。今後も職員同士が話しやすい雰囲気づくりに努め、風通しの良い職場環境づくりに力を入れていきたいと考えている。利用者の表情や会話から”我が家”のように生活されている様子が伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月2回の朝礼時に、医療法人みやうちの理念を唱和している。ホーム独自の理念を作成し朝礼時に復唱している。	開設当初（平成22年4月1日）の事業所独自の理念を基に、毎日の朝礼時に唱和、6カ月毎の目標を共有することで実践に繋げている。また、管理者と職員で定期的に面談を行い、日々業務の中でも疑問などあればその都度話し合いをしている。理念についての意識が維持・向上できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアに来ていただき交流をもっている。	ボランティアの協力により、併設の小規模多機能ホームと合同で、季節毎の行事およびイベントを開催している。母体病院を中心に法人の「健康フェア」などが開催され地域の方々にも来訪して頂く取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、病院が主で地域貢献をしている。今後は協力し活かしていきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在運営推進会議を開催し、交流行事等の実施状況を報告している。利用者・家族からの意見要望を聞きそこでの意見をサービス向上に活かし取り組んでいる。	民生委員・利用者・利用者の家族・市役所職員または地域包括支援センター職員・当法人グループ職員が参加している。適宜、テーマを決めて勉強会を実施している。随時、参加者との連携を行い、地域との関わりをもち、その中で地域情報やアドバイスを頂き、利用者の支援および運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事務長がパイプ役になり市との連携を図っている。	法人全体の広報誌を年4回発送している。市担当者または地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加している。主に事務長がパイプ役として、市の担当者と密に連絡を取り、協力関係を築くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠せずセンサーで対応している。身体拘束はおこなっていない。	日中は玄関を開放している。安全確認のため、玄関にはセンサーチャイムを使用している。月1回、身体拘束について研修を行っている。身体拘束を行わないことが当たり前のケアということを職員全員で認識し、正しく理解されている。利用者支援について疑問があれば、速やかに話し合いを持つようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修へ行った職員から学ぶ機会を持ち、虐待防止への注意を払い防止に努めている。また、全体会で勉強会をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見人を利用されている方はいないが、全体会議で簡単に勉強をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談員、係長が十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、運営推進会議、ケアプラン説明時意見・要望を聞き運営に反映させている。	広報誌を年3回発送している。家族会の実施や法人として、サービス向上委員会を中心に利用者・家族に対して年1回「アンケート」を実施している。意見があった時には話し合える体制を確保し、それらの意見や要望などを利用者支援および運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の全体会議や朝礼時・終礼時・カンファレンス時に、意見や提案を聞き反映させている。	管理者と職員との定期的な話し合いに加え、職員は日々の支援で疑問などあれば直ちに話し合いの場を設け、職員全員がチームアプローチのもと、利用者支援に取り組んでいる。昨今の災害状況を踏まえ、備蓄などについて話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課をし面談を行い、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内研修や院外での研修内容を掲示しさまざまな研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、2ヶ月に1回ホーム長同士の会議を行い、サービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、訪問を行い本人が安心して生活していただけるよう困っていること・不安・要望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、訪問を行いご家族が困っていること・不安なこと・要望に配慮しながら、個別ケアができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	訪問時に良く話しを聞き、本人と家族がまず必要としている支援を見極め、日常生活を楽しく過ごせるよう、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者一人一人の個性を把握し、一緒に生活しやすい環境になるように話し合い工夫している。コミュニケーションを密に図り信頼関係を深めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時ご家族と情報交換を行い、共に本人を支えていく関係を築いている。年4回新聞を発行したり、生活の様子・行事等の写真を掲示しご家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人やご家族等から馴染みの人や場所について確認し支援に努めている。	家族と相談しながら、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。併設の小規模多機能ホームと合同で行事など行うなか、以前関わっていた方との出会いもある。職員の提案により、平成26年度から年2回（年賀状・暑中見舞い）送るようになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の中で利用者同士の関係を把握した上でトラブルのない様によりよい関係作りができるよう工夫している。歌・ゲームなど色々なクラブ活動を通して利用者同士が交流できるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了した場合、面会や必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様一人ひとりの思いや希望等を大切に、日常生活の様子からもご本人の思いを汲み取れる様に心掛けている。	家族の要望に応じて、墓参りや盆・正月帰省をしている。生活歴や日々の関わりのなかで、要望を把握できるように努めている。利用者個々の望むことは介護計画に反映され、実行に移している。言葉や行動など、日々きめ細かい観察から、個性を活かした役割や楽しみごとをもって頂くことに心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	安心して生活できるように生活歴・趣味等会話の中からコミュニケーションをとれるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日のリズムつかんだりやコミュニケーションを円滑に行うともに、1日1回バイタルチェックし心身状態を把握している。月1回の体重測定を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスでモニタリングし、それぞれの意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	担当者制により、担当職員が利用者3人程度をアセスメントとしている。家族の意見や本人の思いを尊重した介護計画を作成し、立案後家族に内容説明を行っている。本人の活動や役割を通して、日々の生活が楽しく、快適となるように具体的な介護計画をたてて、実施をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づきケアの実践に努め情報を積極的に取り入れ創意工夫を心がけ改善・見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	絶えず進歩する技術をマスターして介護の質の向上を図るため、自己学習や研修会に参加し全体会でも勉強会を設け、多機能化に取り組むようにする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	病院の健康フェアやデイケア・デイサービスの催しに参加したり、ボランティア活動を利用しメリハリのある暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医や通院方法についてご家族や、ご利用者様の希望に沿っており、他院への受診内容はその都度ご家族から報告を受けている。	かかりつけ医については、入居時に利用者・家族と相談して決定している。併設病院への定期受診や緊急時にも連携体制が整っており、ホームとして適切な医療が受けられる安心感がある。治療経過の記録も「申し送りノート」が活用され、個々のカルテは丁寧に管理され、きめ細やかな情報共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は情報や気づきを係長に報告し、また併設病院の看護部長にも報告し適切な受診や看護が受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院関係者との情報交換や相談などは面会時・電話等で対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合について、医師が状況説明を行った上で、家族また本人・職員等と事業所で出来ることの説明や意思確認を行い、同意の上で、状態の変化に応じ医師・医療関係者との連携をとりながら介護計画作成をし支援していく。	ホームとして、今のところ終末期の経験は無いが、利用者・家族が希望すれば、対応する方針である。重度化やターミナルの時期には、医療機関との連携が不可欠なため、かかりつけ医との話し合いをその都度重ねての対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えて急変時のマニュアルを作成しシミュレーション訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害等のマニュアルを作成しシミュレーション訓練を月1回行っている。	夜間は、特に職員人数に限られるため、主に夜間想定または消火器などの設備研修を月1回実施し、防災意識を高めている。災害の発生時に備えて、備蓄なども準備されている。同敷地内の事業所や近隣職員の協力および連携体制が法人内で整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう思いやりのある言葉かけや対応を心掛けている。	接遇・倫理法令など年間計画により研修を重ねている。管理者は風通しの良い職場環境が第一と考え、日々疑問などあれば話し合う機会を設けている。常に相手の立場になって考え、利用者一人ひとりを尊重し、受容、共感、傾聴の姿勢を大切に対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思い・希望を尊重するケアを心がけ気配りをしながらアプローチをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活空間で可能な範囲で役割を持ちながら生活を行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望により理容院を利用したりしている。化粧される方には、化粧品が揃うよう支援している。着替えも自分で選んで頂いている。男性は、毎日髭剃りをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物の希望があるときは、希望に添えるよう献立を考えたり、一緒に準備や片付け食事作りをしている。畑で収穫した食材を使ったりしながら、旬の物を取り入れ季節感を感じていただいている。	3食共に手作りで提供している。希望食などあれば対応している。誕生日には、本人のリクエストに応えられるように努め、手作り食でお祝いしている。職員も同じ時間に同じ食事を食することにより、食事が楽しめる工夫や雰囲気作りをしている。昼食前の口腔体操や月1回の体重測定により、栄養状態を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立を週ごとに立てている。一人ひとりの状態にあった食事の形態とし，食事量のチェック・体重管理をしている。水分量は1日を通して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前，口腔体操を行っている。一人ひとりの口腔状態を観察し毎食後口腔ケアの声掛けをし，必要な方には，口腔ケアの介助を行っている。必要に応じ義歯の方には，ポリグリップの装着・洗浄・ポリデントにつけたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し排泄リズムに合うよう声掛け・促し失敗を減らすよう対応している。自尊心を傷つけないよう十分配慮した言葉遣いと対応を心掛けている。	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い，利用者の状態に合わせて対応している。便秘予防として，適宜の軽い運動や水分量は，1日1,000CCを確保するように努め，食物繊維を多く含む食材を選んだりしている。なお，トイレの位置も適所（3箇所）にあり，使い勝手が良く住環境の整備にも力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排便確認を行っている。便秘気味の方には医師の指示により下剤で調整している。食事の工夫や水分，軽い運動や散歩をして頂いている。規則的な排便習慣ができるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日，日時を決めておらず，声掛けにて希望時に入浴して頂いて，拒否があれば無理をしないようにしている。17時以降の希望の方は現在おられない。	最低，週3回は入浴可能な体制をとっている。温泉成分が含まれたお風呂により，心身共にリラックスされている。一人ひとりの状態を把握し，本人の希望や体調に合わせた入浴支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者のペースで休んでもらっている。昼間でも食後少しでも横になれるような時間も設けている。室温や服装にも気を配り一人ひとりが快適に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報表作成し、処方された薬について職員間で情報を共有している。また、処方箋のコピーにいつまで薬が有るかなど把握出来るようにしている。薬が変更になった時は、特に症状の変化や副作用を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を活かした役割や園芸・畑づくりに関しての助言を頂いたりしている。散歩やドライブ、他部署での行事参加等、気分転換が出来るように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿って日光浴をしたり散歩・ドライブを行っている。家族の協力もあり外出する機会も増えている。散髪希望があれば、近所の理髪店に出かけている。	家族の協力をお願いする場合もあるが、外出することは、本人にとって気分転換にも繋がるため、行事計画書により外出対応がなされている。ドライブ、外食などを通じて地域の皆様との交流が図れるよう機会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じてお金を持って頂いている。買い物などの時に使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時は電話を使用して頂く。携帯電話を持たれている方は携帯で連絡されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用する空間は特に清潔が保てるように配慮している。湿度・温度を一日3回測定し過ぎしやすいように気をつける。壁には、毎月のカレンダーを入居者と一緒に作ったり季節にあった作品も飾っている。玄関先には、季節にあった生け花を飾っている。	湿度・温度を1日3回測定され、換気や衣類調整にも気を配り、一人ひとりが快適に過ごして頂くように、健康管理に努めている。ホーム内には、季節毎の飾りつけや生け花を飾られている。職員も穏やかな対応に心掛け、一人ひとりが心休まり我が家のように生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりが自由にくつろげる空間や交流出来る居場所作りを大切にテーブル・ソファ椅子の場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	面会時など場合により職員も一緒に相談をする。使い慣れた物や好みを活かした家具を持ってきていただいている。家具などの配置も希望に沿っている。職員も一緒に整理整頓をし、快適に過ごして頂ける様、支援している。	ベッド・クローゼット・洗面・エアコンはホームで用意されている。見学の時または入居時に馴染みの物品などの必要性を話されている。使い慣れた家具や生活用品を持ち込まれ、本人が安心して過ごせる場所となるよう本人や家族と相談しながら工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーになっている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援している。一人ひとりの出来る事は見守りしながらして頂けるように支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 平成 26年 10月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の理念を唱和するだけでなく、笑顔を忘れないよう職員同士が声をかけあう。	毎日笑顔で仕事をす る。	①健康管理をする。 ②個人のモチベーションを上げると共にチームワークを大切にする。③悩みなど打ち明けやすい雰囲気を作る。	1カ年以内
2	2	ボランティアの方に来て頂き交流を図っているが、保育園などとの交流が行えていない。	幅拾い世代の方との交流を図る。	①地域の保育園や託児所などに依頼し、交流を持って頂く。	1カ年以内
3	13	ホーム内での消防訓練は月に1度施行しているが、年1度は法人内の協力のもとでの火災訓練を行う。消防署にも依頼する。	年1度法人内協力の下で火災訓練を行う	①事務長と相談する。②事務長と消防署との打ち合わせにて日程調節をする。	1カ年以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。